長野県木相村の間伐材を使用しています

環境局環境企画部の机やパーテーションには名古屋市の水源地である 長野県木祖村の間伐材を使用しています。水源地で間伐などの 適切な森林整備が行われることで、名古屋市の水や自然環境を守ることにも繋がります。

木材を利用して森林を守る



森林のはたらき

日本の国土の67%は、森林であり、そのうちの4割は、戦後に植えられたヒノキやスギ、カラマツなどの人工林です。

森林には、水源を育む、二酸化炭素を吸収する、土砂崩れ を防ぐなどの人の暮らしを支える機能があるとともに、野生 生物の住みかでもあります。





森林管理の大切さ

人工林は間伐などの手入れや継続的な利用が行われないと、木が密集状態になり、日が当たらなくなります。そうなると下草が生えず、土砂崩れが発生したり、木の高齢化による二酸化炭素吸収量の低下が起きたりなどうまくその機能が発揮されません。

そこで、私たちが木材を利用することで、適 度に伐採が行われ、新たに植樹が行われるなど の好循環が生まれることが重要です。



木祖村~なごやの水源の森~

長野県木曽郡木祖村は、長野県のほぼ中央部に位置する木曽川源流の村です。

なごやの水の源であるこの地域には、水木沢天然林と呼ばれる約82ヘクタールの天然林や戦後に植林されたカラマツやヒノキの森があります。

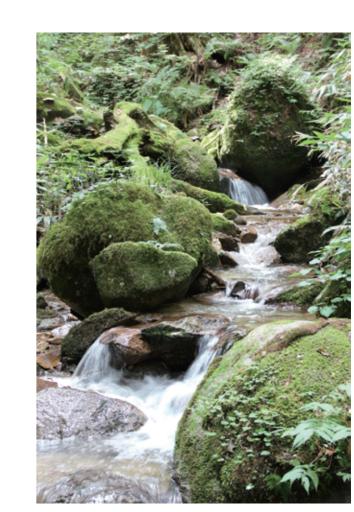
水で繋がる名古屋市と木祖村の間では交流事業が盛んにおこなわれています。



木祖村



上下流交流 (チップまき)



水木沢天然林